# 令和６年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

**県央会場**

**科目　④子どもの発達理解**

◆　子どもの発達は成人するまでの単なる準備段階ではなく、その時々固有の意味と価値を持つものであり、発達には個人差があることが分かりました。それらを理解して子どもの行動を見守り、行動の背景にある原因の固有性にも配慮しながら、柔軟な支援を行うことが必要だと感じました。人間は生涯発達していくものだということを心にとめて、子どものみならず、社会人として継続的に学んでいく姿勢を維持します。

◆　子どもは社会の中で関わる人全ての愛情を受け取って自分で道を切り拓いていくということを感じた。人生の中の短い期間しか接しないが、愛を持って接することでその子の人生が豊かに彩られることが分かり、自分の価値観、大人の価値観をあてはめず、その子の個性、完成を延ばす手伝いをすることが大切であると感じた。子どもも家族も安心して暮らせる社会になれば良いなと思う。

◆　「ただいまー」と言って帰ってくる子どもたち、同じ日は一度もないから一日を大切に真剣に過ごしてもらうことから始める。発達の個人差を踏まえて、心身の状態を把握しながら育成支援を行う大切さ、難しさ、何をどれだけ出来るかで評価されがちな昨今、その子が存在することが一番の価値だと思い、「笑顔」で、その子の良さにしっかりと目を向けていきたい。

◆　子ども一人ひとり、発達の段階が違うので、同じ学年やクラスであったとしても、同じく成長していると思うのではなく、個々の発達過程を理解し、尊重することで、援助の方法や支援が変わることを理解しました。また、それぞれの発達段階にも意味があり、その段階があるからこそ成長していける、あるいは成長している証であるのだと思いました。発達というのは人生そのものであり、亡くなるまで終わりはないのだと思いました。

◆　子どもの発達は、時期区分があり、それぞれに特徴があるため、その特徴を理解する必要がある。しかしながら、全ての時期はお互いに影響し合っており、発達は個人差、環境等により進度が違う。子どものありのままを受け入れ、子の発達と時期があっていなくても、成長を信頼し、今の姿を理解すること、子どもの話をよく聞き、一人ひとりの違いに向き合い認めることで、自己肯定感、自己有用感につながる。